Manual ■ バッハによるカノン

この曲は、ヨハン・セバスチャン・バッハによって作曲されたとされるカノンです。5音からなる長調の音階によるカノンですが、この中に、コーラスの技能を育てるとても大切な要素が隠されています。上行下行形の旋律に下行上行形の旋律を加えると、全部で8声のカノンになります。はじめは複雑に聴こえるかもしれませんが、短い時間で継続して扱い、少しずつ挑戦してみてください。歌うときは、「マ」や「ラ」など自由に工夫して歌いましょう。

Step 1、Step 2 は Vol. 1 を見て、よく練習してください

Step 1
上行下行形を
まずは全員で練習する

【上行下行形　ユニゾン】
・音が上行するときは、音程が下がりがちになるので明るく、積極的に。
・音が下行するときも、音程が下がりがちになるので慎重に。
・2つ目や4つ目の八分音符の音は短くなりがちなので、丁寧に、長さを意識して歌う。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

Step 2
4つに分かれて歌う

【上行下行形　4声カノン】
・2つ目や4つ目の八分音符の音は、常に鳴っているドミソの響きの圧力により音が下がりがちで、不安定になる傾向があるので注意する。
・パート同士が同じピッチで歌い合えるように、お互いのパートをよく聴く。
・テンポがずれないように意識する。

Step 3 ～ 5 は Vol. 2 で扱う、新しいステップです

Step 3
下行上行形を
全員で練習する

【下行上行形 ユニゾン】
・歌い始めるタイミングに注意する。はじめの休符を意識するとよい。
・2つ目や4つ目の八分音符の音は短くなりがちなので、丁寧に、長さを意識して歌う。

Step 4
4つに分かれて歌う

【上行下行形＋下行上行形　8声カノン】
・**Step 2** の注意事項と同じ。

Step 5
上行下行形と下行上行形を
8つに分かれて歌う

【上行下行形＋下行上行形　8声カノン】
・**Step 2** の注意事項と同じ。

★ 半音ずつ音を上げて練習しましょう
★ うまくいかないときは、ユニゾンに戻って練習しましょう

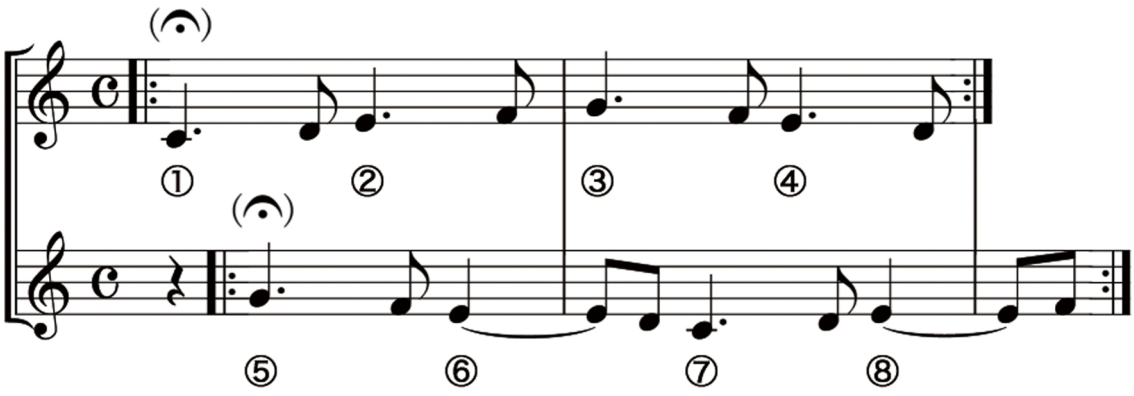
Level Up !

● 指名された一人が最初に歌い出し、他の人は各自好きなタイミングでハーモニーに加わる。
　⇒ この方法で、お互いの声を聴き、ハーモニーの中での自分の声を意識することができるようになります。

Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

バッハによるカノン

J.S.Bach

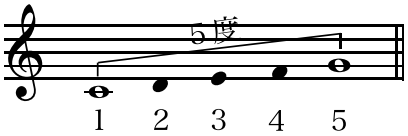


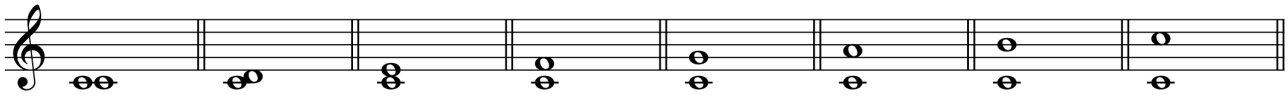
この楽譜は、カルドシュ・パール著『合唱の育成・合唱の響き』p.92 より抜粋しました。

Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

楽典

■**音程**　2つの音高のへだたり(距離)を音程といい、数字と度であらわします。

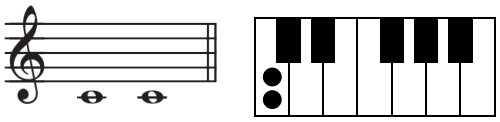




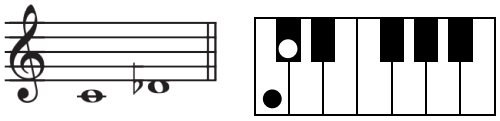
1度　2度　3度　4度　5度　6度　7度　8度

同じ度数でも、2つの音に含まれる半音の数によって響きは異なり、それぞれ長・短・完全・増・減と呼ばれる種類に分けられます。

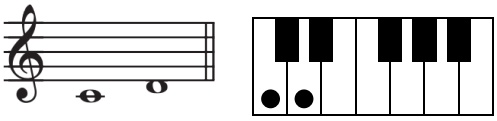
完全1度



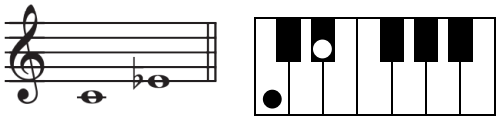
短2度



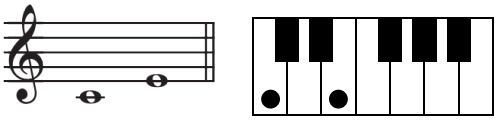
長2度



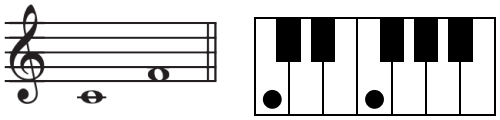
短3度



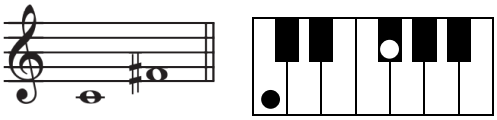
長3度



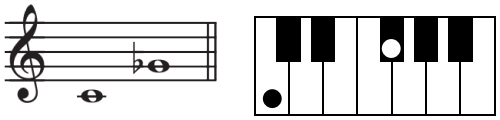
完全4度



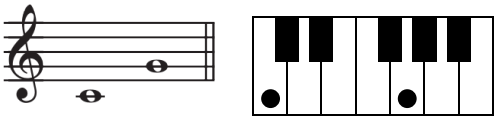
増4度



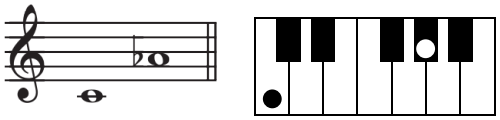
減5度



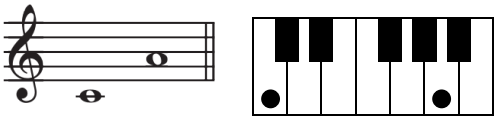
完全5度



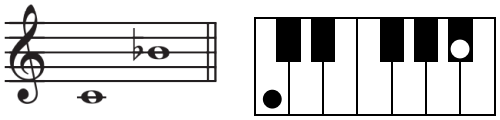
短6度



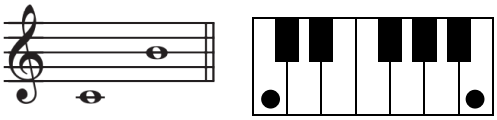
長6度



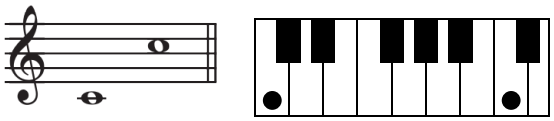
短7度



長7度



完全8度



Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

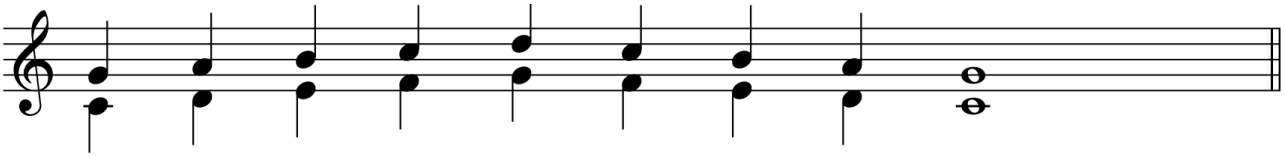
音程を構成する 2 つの音が、よく調和して響くものを「協和音程」といい、濁った響きにきこえる音程を「不協和音程」といいます。また、「協和音程」は調和の度合いによって、さらに「完全協和音程」と「不完全協和音程」にわけられます。

【協 和 音 程】 … ［完全協和音程］ 完全 1, 4, 5, 8 度 ／ ［不完全協和音程］ 長短 3, 6 度
【不協和音程】 … 長短 2, 7 度、増 4 度、減 5 度

■平行と反行

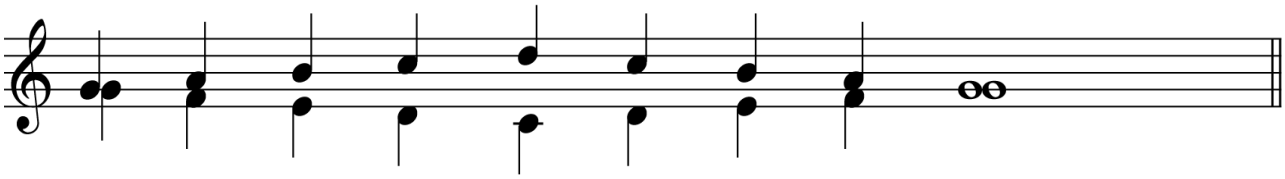
平行

2 つの声部がたがいに同じ方向に動くことをいいます。
また、常に同じ音程間隔を保ちながら進行する場合も平行といい、以下のように常に 5 度音程で進行することを平行 5 度、あるいは連続 5 度といいます。



反行

2 つの声部がたがいに反対の方向に動くことをいいます。



Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

音楽用語

■ ユニゾン：　同度の音、あるいは同度の旋律を 1 声部あるいは数声部が一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度 の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。

■ カノン：　厳格な模倣様式よる多声楽曲の形式および技法。ある 1 声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2 声カノン、3 声カノンや 2 重カノン、同度カノン、2 度カノン・・・など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。

■ ピッチ：　音高（音の高さ）

■ オスティナート：　ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。

■ オブリガート：　助奏。とくに、ひとつの歌声と協奏する声部のことであり、独唱（奏）に加えて演奏される伴奏以外のパートを指す。もとは、楽曲に不可欠で省略できない声部のことであり、アド・リビトゥム（ad lib.）の対語である。

■ 不協和音程：　2 音が協和しない音程。振動数比が複雑で、同時に鳴ると濁った響きを生む。

■ トーンクラスター：　2 度以内の音程で密集した音の塊のこと。調的な機能を持っていない点で、和音とは区別される。20 世紀後半におけるもっとも重要な技法のひとつ。

■ オルガヌム：　9 世紀から 13 世紀のヨーロッパで行われた合唱の技法であり、初期の多声楽曲のこと。ひとつの旋律に対し、常に 4 度・5 度音程をなす声部を加えて歌うもの。初期は 2 声の合唱であったが、発展するにつれて声部も増え、1 度・4 度・5 度・8 度の完全音程を中心に、3 度・6 度なども使用された。平行オルガヌム、反行オルガヌム、自由オルガヌムなどがある。

[出典]
・目黒惇編 (1983) 『新訂合唱事典』　音楽之友社
・淺香淳編 (1991) 『新訂標準音楽辞典』　音楽之友社
・柴田南雄，遠山一行総監修 (1996) 『ニューグローブ世界音楽大事典』　講談社
・金澤正剛監修 (2004) 『新編音楽小辞典』　音楽之友社
・小西友七，南出康世編集主幹 (2006) 『ジーニアス英和辞典』第 4 版　大修館書店

参考文献

・フォライ・カタリン，セーニ・エルジェーベト共著 (1975)『コダーイ・システムとは何か』
羽仁協子，谷本一之，中川弘一郎共訳　全音楽譜出版社
・カルドシュ・パール (1994)『合唱の育成・合唱の響き』
羽仁協子監修，菅原恵利訳　全音楽譜出版社

Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.